



本日はお忙しい中、株式会社オプトランの 2019 年度第 2 四半期決算説明会にご参加いただきありがとうございます。代表取締役社長の林為平でございます。日頃は弊社に関し、分析・調査・報告や株式投資運用等をしていただき、有難うございます。

現在、弊社を取り巻く市場環境変化は早く、積極的な技術のレベルアップや新技術の取得が不可欠ですので、研究開発を最優先に取り組み、受注獲得に努力をして行きたいと考えております。

短期的には米中貿易摩擦の影響が懸念されますが、光学薄膜に関する基本的な需要は確かなものがあると考えております。

これまで築いてまいりました事業基盤をさらに強化し、企業価値向上に取り組んでまいりますので、引き続きご支援をよろしくお願いいたします。これより弊社の直近決算の状況につきご説明いたします。よろしくお願いいたします。

<b>I. 2019年12月期 第2四半期 決算概要</b>	<b>P 2</b>
--------------------------------	------------

<b>II. Appendix</b>	<b>P12</b>
---------------------	------------

## I. 2019年12月期 第2四半期 決算の概要

- 決算ハイライト (連結)
- 売上高・分野別売上構成
- 受注高・受注残高
- 営業利益
- 売上高 (2019・2Q)
- 受注高・受注残高 (2019・2Q)
- 営業利益 (2019・2Q)
- 財務の状況
- CFの状況

## 決算ハイライト（連結）



### 業績は大幅伸長

- 売上高構成の多様化が進展。非北米系売上高が70%。
- スマートフォンは中国/韓国系中心に、3D・加飾膜・カメラモジュールの高機能化などの需要に対応。カメラレンズ、IoT、LED向けも当社が市場をリードし、売上堅調。
- 2Q前半の受注は堅調であったが、それ以降、米中貿易摩擦の影響で、発注様子見傾向が強い。
- 短納期を求める顧客が増加し、きめ細かなコンタクトが必要な状況。
- 2019年業績予想比、2Q達成率は、売上58%、経常利益64%・純利益71%。

(百万円)

	2018年12月期 2Q累計	2019年12月期 2Q累計	前年同期比
売上高	21,811	26,677	+22.3%
営業利益	5,425	7,396	+36.3%
(営業利益率)	(24.9%)	(27.7%)	—
経常利益	5,719	7,262	+27.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,972	5,994	+50.9%
研究開発費	1,603	1,478	△7.8%

3

おはようございます。取締役専務執行役員 高橋俊典でございます。お手元の資料に基づきまして、本年度第2四半期の決算についてご説明を申し上げます。

3 ページですが、ご覧いただきますような結果になっております。いずれの数値も、前年同期比で大幅なプラスということです。特徴といたしましては、第一に売上高構成の多様化が伸展ということで、第2四半期累積に関しましては、非北米系売上高が70%という高い比率になっております。スマートフォンに関しましては、中国・韓国系を中心にいたしまして、3D、加飾膜、カメラモジュールの高機能化等の需要に対応しております。

ちなみに、北米系につきましても動きはあります。それからカメラレンズ、IoT、LED向けも当社が市場をリードいたしまして、売上は堅調に推移いたしました。

第2四半期前半の受注は堅調でしたが、それ以降、米中貿易摩擦の影響が出て、2四半期の終わりから、発注の様子見気分がかなり継続し、今日に至っているという状況はあります。

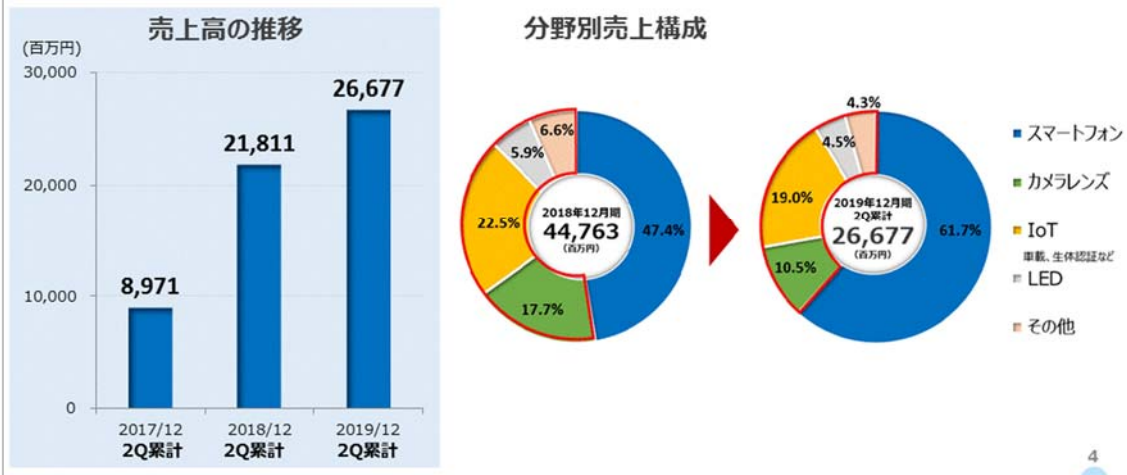
現状、短納期を求めるお客様が増加しており、当社の主要工場の上海工場はかなり繁忙になっております。きめ細かいコンタクトが必要な状況にあります。

第2四半期累積の数値に関しましては、2019年に発表しております業績予想に対し、売上では58%、経常利益64%、純利益71%ということになっております。

## 売上高・分野別売上構成



- スパッタ装置の売上が6割、2019・1Qのスパッタ装置増が寄与。
- スマートフォン売上は中国/韓国系比率が増え、北米系と1：1。
- カメラレンズは機能高度化が継続し売上堅調。
- IoTは生体認証の他、車載でインパネ用スパッタ装置受注・売上を計上。
- LEDは新型DBR成膜装置の売上を計上。



分野別構成等ですが、ご覧いただきますように、スマートフォンの比率が前年同期に比べると増えております。

スパッタ装置の売上が全体の6割、そして2019年第1四半期のスパッタ装置売上がかなり寄与いたしまして、スマートフォンについては比率の増、そして非北米計の躍進という特徴があります。北米系と中国・韓国系の比率は1対1になっております。

それからカメラレンズは機能高度化が継続いたしまして、売上は堅調に推移しました。

そしてIoTは生体認証のほか、車載でインパネ用のスパッタ装置の受注・売上を、この期に計上いたしております。いわゆる新型装置の一種です。

LEDにつきましても、新型のDBR成膜装置の売上を、この期に計上しております。



## 受注高・受注残高



### <2019年・2Q累計受注高>

- 受注高は、前年と2Q対比では同レベル、2019・1Qの受注減が反映。
- 受注構成は蒸着装置対スパッタ装置が10:7。
- 2019・1Qは低調、2Qは回復傾向であったが、期後半から米中貿易摩擦の影響が顕著となった。
- スマートフォンでは、中国・韓国・台湾等の受注、カメラレンズでは、中国の監視カメラメーカーから高機能成膜装置の受注堅調。
- IoTでは、生体認証の他、新型装置の車載インパネ用やLEDのDBR/TCO膜用成膜装置でも受注を確保。

5

次のページにまいりまして受注高、受注残高ですけれども、受注高は前年と、2四半期対比では同じレベルになっております。大体112億円ぐらいなのですが、第2四半期だけを取りますと、後からも出てきますが、ほぼ横ばいのレベルです。

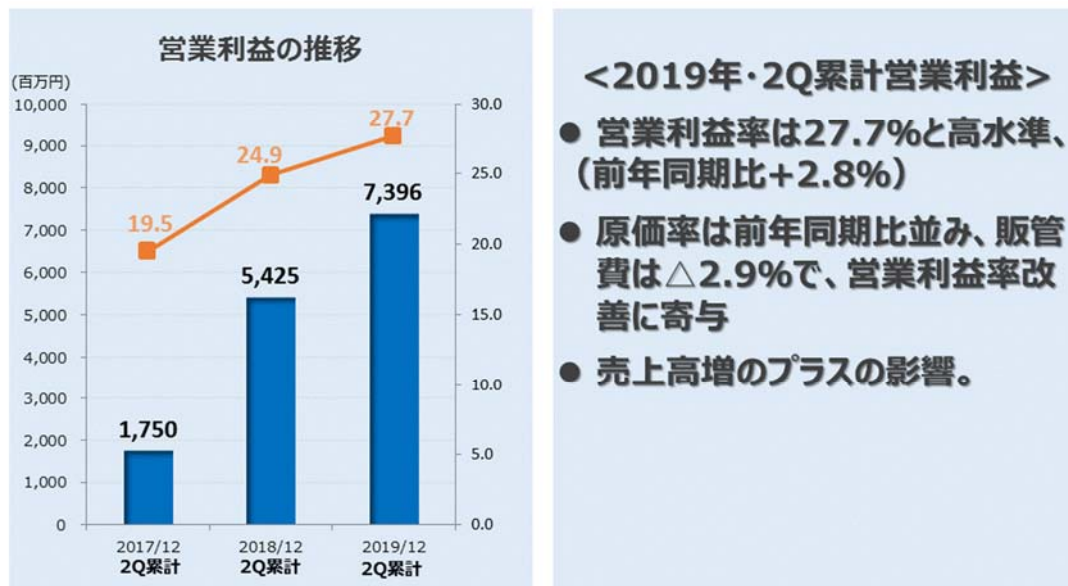
第1四半期の受注減がかなり顕著でしたので、それが反映して2四半期累計では受注高がダウンという結果になっております。

受注構成は、蒸着装置とスパッタ装置が10対7で、蒸着装置が多くなっております。1四半期の受注が低調、2四半期は回復傾向だったのですが、先ほど申しましたように期後半から米中貿易摩擦の影響が顕著になり、今は様子見の状況が強くなってきております。

スマートフォンでは中国・韓国・台湾等の受注、カメラレンズでは、中国の監視カメラメーカーから高機能成膜装置の受注を受けております。

またIoTでは生体認証のほか、新型装置の車載インパネ用やLEDのDBR、TCO用成膜装置、いずれも新型装置ですが、この受注を取得しております。

# 営業利益



6

次のページにまいりまして営業利益ですけれども、2019年第2四半期累計の営業利益は27.7%と、前年同期比2.8ポイントプラスの水準になっております。

原価率は前年同期並みでしたので、結局販管費がマイナス2.9%減ということで、これが営業利益の改善に寄与しております。売上高の増加がありましたので、これが販管費率の減という結果になっております。

# 売上高 (2019・2Q)



## <2019年・2Q売上高>

- 売上は127億円と前年同期比で増。
- スマートフォンでは、中国・韓国メーカーが活況。非北米系が売上高の80%。
- 3D・筐体バックガラス・加飾膜・カメラモジュールの高機能化等対応。
- カメラレンズでは、監視カメラメーカー等の売上堅調。
- IoT分野では、車載・生体認証・半導体・光通信で売上確保。
- 新型装置はLED用DBR・TCO装置、車載インパネ用成膜装置の受注・売上開始。

7

次のページにまいりまして、ここからは第2四半期だけのご説明です。

2019年第2四半期の売上高につきましては127億円と、前年同期から増加をしております。

スマートフォンでは中国・韓国系メーカーが活況でして、非北米系の売上高が全体の80%ということで、昨年、今年と、当社の戦略として多様化をしていくということを目指しておりますが、それが売上高に反映をしてくれているということです。

3D、筐体バックガラス、加飾膜、カメラモジュールの高機能化等への対応をしております。

それからカメラレンズ、IoT分野でも売上を確保しております、堅調に推移をしております。

また新型装置につきましては、LED用のDBR、TCO装置、車載インパネ用、成膜装置の受注、売上が、この第2四半期から開始されました。2019年の2四半期累計でいきますと、同期間の受注の大体8%ぐらいを、受注・売上に関しては新型装置が占めるということになってきております。

## 受注高・受注残高（2019・2Q）



### <2019年・2Q受注高>

- 受注高は前年同期比横ばいのレベル。
- 2019年1Qは受注低調、2Qより回復傾向が見られたが、期後半に米中貿易摩擦の影響が顕著となり、受注は再びスローダウン。
- 但し、高機能成膜ニーズは根強く、全般的に顧客の高性能成膜装置へのニーズは潜在的には強いものがある。

8

次のページは、第2四半期の受注高・受注残高です。

受注高は前年同期比横ばいのレベルです。第2四半期は111億円、1年前の第2四半期は112億円。ほぼ横ばいのレベルになっております。

2019年1四半期は受注が低調だったのですが、2四半期より回復傾向が見られ、ただし第2四半期後半、6月辺りから米中貿易摩擦の影響ということで、受注が再びスローダウンしたという状況はあります。

ただし高機能の成膜ニーズはかなり根強いものを感じておりまして、全般的に顧客の高性能成膜装置へのニーズは潜在的には強いというふうに、当社としては感じております。

ただ、それが発注という形で力強く当社の受注実績に反映される、そのタイミングがいつかということで、当社はそれを探っている状況です。



## 営業利益 (2019・2Q)



### <2019年・2Q営業利益>

- 営業利益率は25.7%と高水準
- 2019・1Q比で△3.8%  
原価率+2.9%、販管費+1%が要因
- 但し、原価率は60.4% (前Q比+2.9%) だが実質57.8%で横ばい (説明) 連結会計で、上海分在庫利益消去として原価計上+2.6%で、実質原価率は57.8% (2019・1Q並み)
- 売上高減に伴い、販管费率アップ (前四半期比+1%)

9

次のページで営業利益にまいります。第2四半期の営業利益率は25.7%と高水準でした。1四半期比での営業利益は3.8%下がったのですが、その内容としては、原価率が+2.9%、それから販管費が+1%となり、営業利益率が3.8%見かけ上、下がっております。

ただし、会計の技術的な要素で、この原価率は実はほとんど上がっておりません。第2四半期の原価率が60.4%なのですが、実質は57.8%です。連結会計では、当社の場合は上海で装置を作って本社が全て買い上げて、本社がお客様に販売した時点で売上が立ち、利益が全部実現します。しかし上海は出荷ベースですので、上海の売上は、出荷をしたときに売上を計上いたします。すなわち利益が実現いたします。ただし本社につきましては、お客様に販売した時に利益が出ますので、上海の利益分が本社の原価の一部となり、本社がお客様に売るまで本社の在庫金額に含まれます。連結時に、この利益分は消去をしなければいけません。すなわち上海の利益というのは、本社の連結ベースでは消去しなくては行けませんので、これを原価に上乗せして利益を消すという操作をいたします。したがってその分が、この第2四半期では2.9%原価に乗っております。すなわち会計処理の事情での原価率のプラスということですので、実際はこれを引いていただくと57.8%となりますので、1四半期と2四半期で比べて、原価率はほぼ横ばいということですので、結局2四半期は販管費が1%増えましたので、その分だけ営業利益率は下がっていると解釈していただくのがよろしいと思います。

## 財務の状況



(百万円)

	2018年12月末		2019年6月末		増減額	
	金額	構成比	金額	構成比		
<b>流動資産</b>	<b>48,142</b>	<b>86.5%</b>	<b>47,957</b>	<b>85.9%</b>	△184	
現金・預金	15,740	28.3%	26,089	46.8%	+10,348	・売上増より、現金・預金の増加
受取手形・売掛金	6,837	12.3%	5,665	10.2%	△1,171	
棚卸資産	24,487	44.0%	15,780	28.3%	△8,707	・売上増により、棚卸資産の減少
貸倒引当金	△420	△0.8%	△483	△0.9%	△63	
その他	1,497	2.7%	906	1.6%	△591	
<b>固定資産</b>	<b>7,501</b>	<b>13.5%</b>	<b>7,840</b>	<b>14.1%</b>	+338	
<b>資産合計</b>	<b>55,644</b>	<b>100.0%</b>	<b>55,798</b>	<b>100.0%</b>	+153	
<b>流動負債</b>	<b>25,922</b>	<b>46.6%</b>	<b>22,687</b>	<b>40.7%</b>	△3,235	
支払手形・買掛金	1,652	3.0%	3,463	6.2%	+1,811	
短期有利子負債	756	1.4%	572	1.0%	△184	
未払法人税	1,143	2.1%	1,161	2.1%	+17	
前受金	20,108	36.1%	15,658	28.1%	△4,450	・売上計上により、前受金の減少
その他	2,261	4.1%	1,831	3.3%	△430	
<b>固定負債</b>	<b>1,658</b>	<b>3.0%</b>	<b>1,611</b>	<b>2.9%</b>	△47	
長期有利子負債	233	0.4%	208	0.4%	△25	
その他	1,425	2.6%	1,402	2.5%	△22	
<b>負債合計</b>	<b>27,581</b>	<b>49.6%</b>	<b>24,298</b>	<b>43.5%</b>	△3,282	
<b>純資産合計</b>	<b>28,062</b>	<b>50.4%</b>	<b>31,499</b>	<b>56.5%</b>	+3,436	
<b>負債純資産合計</b>	<b>55,644</b>	<b>100.0%</b>	<b>55,798</b>	<b>100.0%</b>	+153	

10

次のページへまいりまして財務の状況です。

若干コメントしておりますが、売上増、そして回収が進みましたので、現金、預金が大  
幅に増加し、棚卸資産が減少し、そして売上計上で前受金が減少するという結果になって  
おります。

## CFの状況



(百万円)

	2018年12月期 2Q累計	2019年12月期 2Q累計		主な要因
	金額	金額	増減額	
営業活動によるCF	△2,304	14,232	+16,536	・売上増により棚卸資産及び前受金の減少
投資活動によるCF	△926	△1,079	△153	・出資金の払込による支出
財務活動によるCF	△5,413	△2,389	+3,023	・配当金の支払い
現金及び現金同等物に係る換算差額	△226	△414	△187	
現金及び現金同等物の増減額	△8,871	10,348	+19,219	
現金及び現金同等物の期首残高	19,893	15,740	△4,153	
現金及び現金同等物の期末(四半期)残高	11,022	26,089	+15,066	

11

次にまいりまして、キャッシュフローですが、ご覧のとおりです。

第2四半期末では150億円余りの増加ということで、大幅に手元流動性は高くなっております。特徴といたしましては、とりわけ営業活動でのキャッシュフローの増、そして投資活動で、これは当社が技術、それから生産能力を取得するために、他社に出資をしておりますので、その分のマイナス。それから配当金の支払金の影響ということが出ておりますけれども、都合150億円余り手元流動性は増えております。

以上、第2四半期に関する決算説明を申し上げます。

以上